



夕焼けから宵にかけての空、美しいものは一瞬ですね。

広徳寺通信

99号



発掘はすべて終わっていません…



祇園精舎（ぎおんしょうじゃ）

お釈迦さまが説法をされたというところに金箔を貼ってお参りする姿がありました



インド仏跡巡礼記 2 「祇園精舎の鐘の声 - サヘート遺跡 -」



地元の料理サモサと…

インドといえばチャイ!



長旅で次の目的地へ!

インドに来てまず初めに訪れた仏跡はサヘート遺跡。日本では「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり…」と『平家物語』にうたわれる「祇園精舎（ぎおんしょうじゃ）」です。精舎とは日本でいうところのお寺のことで、雨季と乾季の二季しかないインドで、雨ばかりの季節には遊行に歩けなかったため、お釈迦さまはお弟子さんたちと一か所に集まり建物内で共に修行したといわれています。その中でもっとも有名な精舎が祇園精舎。今は大地に覆われてすべて発掘されてはいませんが、お釈迦さまが説法した場所を取り囲むように巡礼者が礼拝している姿が見られます。私も一緒に読経させていただきました。世界遺産のようにはなっていないので観光地化もされておらず、静謐に満ちていました。祇園精舎は当時栄えていた強国コーサラ国の首都舎衛城（しゃえいじょう・シュラヴァスティ）近郊にあり、当時の国王の息子ジェータ王子が所有していた林を、スタッタというお釈迦さまに帰依した富豪が、王子の求めに応じてその土地に金貨を敷き詰め購入し、祇園精舎を建て、お釈迦さまの修行場所としたという逸話も残っています。ちなみに、祇園精舎には鐘はなかったそうです…。次回は舎衛城内にあったアングリマーラのお墓のお話です。

身すでにわたくしにあらず、
いのちは光陰こういんにうつされて
しばらくもとどめがたし。

（「修証義」総序）

この私の体は私のものではない。人間の体の約9割が微生物であると知って衝撃を受けました。重さでいうとおよそ1kgにもなるのだそう。そして、足元の地面の土、スプーン1杯分、およそ1gの中にも一兆もの微生物がいるとも聞きました。1兆個体といわれても想像しにくいですが、これは、微生物1個を砂粒1つと考えると、10トンダンブトラック30台分なのだそう。こういう話を聞くと、「うげ、気持ち悪い」と思ってしまうは僕だけ、でしょうか。でも、よくよく考えると、そもそも「私」という存在にくつつくように微生物が存在しているのではないのかもしれない。むしろ、私という存在そのものが、微生物含めたくさんの働きそのものであることに気づきます。数えきれない働き（機）とさまざまな条件（縁）が複雑に絡み合い、網の目のようなネットワークを作り上げている。そう考えると私と大地とのあいだには少しの差もない。一切衆生、生きとし生けるもの、とは私の外にあるのではなく、内外を超えた私そのものである…なんて頭で偉そうに言ってしまう。

…がそれをどう実際の生活に落とし込んでいくか。そこが一番大切だな、と感じています。合掌。

広徳寺の最新情報

広徳寺はインスタグラムとフェイスブックで行事のご案内やご報告、お寺の今をお届けしています。ご利用の方は是非フォローしていただくと、とっても嬉しいですよ！



@koutokuji_temple

新規納骨壇増設

納骨壇利用者が増え、三段型の納骨壇が新規に増設されました。お位牌を安置する場所として、お骨を納める場所として幅広くご利用いただけます。広徳寺檀家の他、菩提寺を持たない方であればどなたでもご利用いただけます。ご希望の方は寺務所までお尋ね下さい。





地元の食材でつくった精進料理



食べる、ということを考えるお話し会



七夕の時には浴衣の子も！



子ども食堂応援する手ぬぐい

1枚1,500円で販売中！



あたたかい食事をみんなで

まんまる子ども食堂の様子



子どもや学生も準備します



お寺の静寂に身をまかせる行事となりました

禅リトリート。聞きなれない言葉ですよ。リトリートとは、現代社会の生活から離れ、本堂の静寂の中で生き方を見直すことです。この夏は二回目、北斗市近郊の他、札幌やニセコなど遠方の方も含め14名の方が参加してくれました。精進料理をいただき坐禅

まんまる子ども食堂。広徳寺では毎週水曜日夜6時から子ども食堂を開催しています。だいたい15人〜30人の方が集いみんなでご飯を食べています。ご家族で来る人もいます。1人で来る学生もいます。若い人が多い印象ですが、シルバー世代の方にもたくさん来てほしいなと思っています。今の子どもは、みんなでワイワイご飯を食べる機会が少ないようです。子どもと遊んだり、一緒にご飯を食べたりすることで、社会のマナーを年配の方から教わったり、年配の方も子どもたちから元気をもらったり、お互いに楽



食事の前後に遊ぶ子どもたち



率先して片付けをする子も！



香港からの方も坐禅をしましたよ！

をしました。食材は地元のもの、作り方も素材の風味を大切にされており、禅の精神にのっとっていただきました。参加者からは「とても綺麗なお寺で静けさを味わうとても素晴らしい経験となりました」というご感想もいただきました。また次回お楽しみに！

しい時間になれば嬉しい。大人三〇〇円、子どもは無料で行っていますが、野菜やお米などはご寄付いただいたり、「まんまる手ぬぐい」を購入していただいた資金で、肉魚や調味料などを買ったりして運営しています。まんまる手ぬぐい、お寺で販売しておりますのでどうぞお声かけください。また、食事を作ってくださいる方ももう少しいてくださると本当に助かります。月に一回でも二回でも来てくれると、このような活動を長く続けることができます。みなさんもお寺と一緒にご飯を食べませんか？



スタッフも参加者もみんなで仕分け



フードパントリー（食品無料配布）

曹洞宗大本山は永平寺と總持寺の二つあり、永平寺は道元禪師が開山のお寺で曹洞宗では最も大切なお寺の一つです。道元禪師が伝えた禅の教えに従って、780年以上にわたり厳しい規律のもと修行僧が修行生活を行ってきました。その雰囲気は何とも言えずおごそかです。特



大本山永平寺への旅行を企画中です…

780年の歴史あるお寺に一泊しませんか？



布にはさみを入れ…



まず布に線を引き…

お袈裟を縫う会の様子



縫い合わせていきます



講師の石上公望老師

まんまる寄席（落語会）。第二回開催されました！今回は二ツ目の春風亭かけ橋さん。お陰様で満員御礼。皿屋敷、と聞く怪談話を思い浮かべてしまいましたが、話が進むにつれ大笑い！次回は十一月二十四日（日）を予定しております！予約開始は九月からです。

お袈裟を縫う会。和歌山県より石上公望老師にきていただきお袈裟を縫っています。お釈迦さまが定めた作り方にのっとって、「私はこうしたい」「ラクしよう」というものをさしはさまず、縫っていきます。現在三回目が終わったところですが、二十人ほどの方にご協力いただいています。完成したお袈裟は来年の晋山結制にて任職が身に着ける予定となっております。一人でも多くの方に携わっていただきたいと願っています。一回でもわずかな時間でも、共にお袈裟をつくる行（ぎょう）に参じてみませんか？次回は八月二十九日（木）です。



落語会の様子

本物の落語を小学生から楽しめます！